

### 1 ネット情報におぼれない学び方



- ① 梅澤 貴典/著
- ② 岩波書店
- ③ 900円
- ④ 00ウ023

新しい時代の学びに即した情報の探し方や使い方, アウトプットの仕方を著者が図書館司書の立場から助言します。ネット資料と図書館資料の使い分けの考え方から, 最終的にはこれらの資料を組み合わせ、自らの意見を論文としてまとめ上げるまでの考え方が書かれた一冊です。

### 2 10代が考えるウクライナ戦争



- ① 岩波ジュニア新書編集部/編
- ② 岩波書店
- ③ 900円
- ④ 31イ023

21世紀に起きた大国による軍事侵攻を若い世代はどのように受け止めているのでしょうか。衝撃, 不安, 怒り, 苛立ち, 不信, そして自分に何ができるのかを模索する若者たち。各地の高校生に率直な思いを聞きました。若い世代が戦争と平和について共に考えるために, ぜひ読んでほしい一冊です。

### 3 学校では教えてくれない生活保護



- ① 雨宮 処凛/著
- ② 河出書房新社
- ③ 1420円
- ④ 36ア023

生活保護は, この国で生きるための「最後のセーフティネット」です。

「どういう時に利用できるの?」「他の国の制度は?」「子どもは高校・大学に行けるの?」今知っておきたい生活保護のリアルな実態と生活保護の知識, 「生きること」について考える本です。

### 4 「死んでもいいけど、死んじゃだめ」と僕が言い続ける理由 あなたのいばしょは、必ずあるから



- ① 大空 幸星/著
- ② 河出書房新社
- ③ 1420円
- ④ 36才022

「死」は怖いものです。しかし, 「死」の恐怖を上回る程の「今」という現実に苦しんでいる人もいます。本気で「死にたい」という思いを経験した著者が, 実体験から語る, “あなたに生きていて欲しい”理由とは。いじめや虐待, SNSによる被害等と孤独に闘ってきた人の拠り所や居場所の見つけ方に関するヒントが書かれています。

### 5 都市のくらしと野生動物の未来



- ① 高槻 成紀/著
- ② 岩波書店
- ③ 940円
- ④ 48夕023

タヌキはまぬけ, カラスは不気味, オオカミは邪悪など, 正しい知識ではなく, イメージで動物を判断していませんか? 動物たちと向き合うためには何が必要でしょうか。

自らの体験や科学的知見を通して語るベテラン生態学者であり, 野生動物保全生態学を専門とする高槻氏からのメッセージです。

## 6 クジラの骨と僕らの未来



- ① 中村 玄/著
- ② 理論社
- ③ 1300円
- ④ 48ナ021

「生き物をよく知ることが、地球を守り、自分たちの未来を築くことにつながる」。骨格見本に興味をもち、生き物が大好きだった少年が、クジラ博士になるまでの研究航海記が描かれています。軽快な語り口でわかりやすく、冒険小説でもないのに、気付けば手に汗を握るほど引き込まれる一冊です。

## 7 「心」のお仕事 今日も誰かのそばに立つ24人の物語



- ① 河出書房新社/編  
荒井 裕樹/[ほか]著
- ② 河出書房新社
- ③ 1420円
- ④ 49カ021

「心のお医者さんって何をしているの?」「心はどうしたら元気にもどる?」。精神科医やカウンセラー、臨床心理士から科学者まで、「心」の不思議に魅せられて、あるいは必要に駆られ、誰かのために今日も奮闘する24人が、それぞれの仕事の面白さと苦勞、今にいたる道のりを綴った本です。

## 8 お金に頼らず生きたい君へ 廃村「自力」生活記



- ① 服部 文祥/著
- ② 河出書房新社
- ③ 1420円
- ④ 61ハ022

山村の古民家を利用し、手間を惜しまずライフラインの自作や自給自足を実践した、登山家の記録です。  
「<sup>う</sup>楽=幸福ではない」ことを意識して、筆者が文明と付き合う姿勢について考えます。工夫次第で、どこまで自力で生活できるのか。生き方の参考として、おもしろい読み物です。

## 9 アゲイン AGAIN



- ① あんず ゆき/作  
丹下 京子/絵
- ② フレーベル館
- ③ 1400円
- ④ 91ア023

ある日、「フードバンクAGAIN」と書かれた建物の前で会った同じクラスのカナ。そこはタダで食事が提供される「子ども食堂」だった。カナから「私は家が貧乏だ」と打ち明けられたアオイは……。フードバンクを舞台にした、貧困生活やフードロスなど、現代の社会問題を、子供の目線で描いた作品です。

## 10 手で見るぼくの世界は



- ① 榎崎 茜/作  
酒井 以/装画・挿絵
- ② くもん出版
- ③ 1400円
- ④ 91カ022

6年生の終わり、双葉の不登校をきっかけに双葉と佑は晴眼者不信に陥り、外を歩くのが怖くなってしまいますが、家族や学校の支援者、友達の助けでゆっくり克服していきます。視覚障害のある二人の主人公がそれぞれの葛藤を乗り越え、ふたたび世界に踏み出すまでを描いた物語です。

11 千に染める古の色



- ① 久保田 香里/著  
紫昏 たう/絵
- ② アリス館
- ③ 1400円
- ④ 91ク022

右大臣の娘、13歳の千古<sup>ちぢる</sup>は、裳着が近いので姫らしくするべきと、外出を禁止され退屈していました。そんなある時、「かさねの色目」をきっかけに、自分で着物を染めてみたくなって屋敷の外にこっそり出て、初めての世界に触れます。守られてきた姫君が、自立を意識する成長の物語です。

12 雨にシュクラン



- ① こまつ あやこ/著
- ② 講談社
- ③ 1400円
- ④ 91コ023

憧れの高校へ進学した真歩。しかし、家庭の事情で引っ越しをすることになり、転校ではなく、高校中退を選択します。自分で決めた道ですが、その決定に自信がもてません。そんな真歩が出会ったのはアラビア書道でした。真歩はどう変わったのでしょうか。踏み出す勇気をくれる一冊です。

13 セントエルモの光

久閑野高校天文部の、春と夏 St. Elmo's Light



- ① 天川 栄人/著
- ② 講談社
- ③ 1500円
- ④ 91テ023

高1の安斎えるもは、3年ぶりに東京から地元に戻ってきました。久しぶりに見上げた星空に感動し、天文部に入ることを決めます。しかし、天文部には変人の先輩が一人いて…。部の存続のために奔走する、等身大の高校生を描いた、爽快な気分になる一冊です。

14 金曜日のあたしたち



- ① 濱野 京子/作
- ② 静山社
- ③ 1300円
- ④ 91ハ023

幼なじみの百音<sup>ももね</sup>より私の方が絶対に優秀<sup>ひなた</sup>なはずなのに……。高校受験に失敗した陽葵が出会ったのは希望していた高校の環境問題研究部の人たち。環境問題をはじめ、現代社会が抱える様々な課題について考えさせられる一冊です。何か“変えたい”，“変わりたい”と思う人へおすすめです。

15 あした、弁当を作る。



- ① ひこ・田中/著
- ② 講談社
- ③ 1400円
- ④ 91ヒ023

昼休み、母親が作ってくれた弁当を開ける。おかずたちが「おいしく食べて欲しい」とプレッシャーをかけてきて、一気に食欲が落ちる。でも、これはせつかく母親が作ってくれたお弁当。いったい、ぼくはどうなってしまったのだろう？自立に向かう中学生男子の複雑な心の変化が分かる一冊です。